

ブービーかぼちゃ生育中

紋別市 松田靖子（五十九歳）

農業（？）は生まれて始めてです。

それなりに一生懸命努力したにもかかわらず、わがカボチャはこんなありさまです。写真は九月二日現在です。

「シンデレラ夢」実行委員会からいただいた種は五粒。芽を出したのは一粒。最初からつまずきました。寒いのもいけなかつた。あの程度大きくなつて移植して、毎日、米のとぎ汁をせつせとやつての大努力。

花も見事に咲きました。この分ならと思つていたのに、そのままの現状維持でかくの如し。自家菜園のベテランから「雄花と雌花が同時に咲けば受粉していくのだけれど、お宅のは雄花が先で、雌花

が後だもの。雄花は散っちゃって間に合わないのさ」とか。後で聞かされました。

見事に今年は失敗しました。しかし、シンデレラはめげてはいません。来年は再度チャレンジしてみましよう。

それにしてもお天気さん、来年はぜひ味方して下さい。つまり今年は「ブービーカボチャ」という次第です。





ミツイばあちゃんとかぼちゃ

あら さとる

幌延町 荒 知（四十八歳）

ある日、何の前触れもなくシンデレラかぼちゃの夕ネが我が家へ舞い込んだ。「どこから〜」「サロマ?」「だれが〜?」

いつも大きいかぼちゃの夕ネがほしいと言っていた 知 お父さんの話を聞いていた札幌の弟のお嫁さんが、新聞を見たからと手紙を出してくれたのでした。

さて、これからが大変。夕ネ蒔きと言えどトラクターで牧草の夕ネしか蒔いたことのない知お父さんなのです。

そこで、ミツイばあちゃんの出番。ビニールハウスの中でポットにひとつぶひとつぶ……。芽が出た！二本？ウーン残念。でも一本はとなり町で小さな学校の先生をしている姪のまゆみが、子供たちと

育てると言うのであげた。その後育ったかはわからない。

さて、我が家に残った一本のシンデレラ。なかなか育ってこない。夕ネといっしょに入ってきた説明書を何度も読みながら……。いよいよ移植。道路から見えるところに植えて通る人に楽しんでもらえればと、いい土を入れて、堆肥を入れて知お父さんは真剣です。

シンデレラは育ち始めた。花、雌花しか咲かない……。ミツイばあちゃんのエビスかぼちゃの雄花をつけてみた。だめだった……。

二つ目の花。グッドタイミングで雄花と雌花が咲いた。朝の間につけないとすぐにしぼんでしまうのも知らなかった。シンデレラのかぼちゃは育ち始めた。一日一日大きくなるのが目に見えるように。

朝、牛舎に行くとき、帰るとき、夕方またながめて歩く。一休みするとき、仕事をサボってもながめに行く毎日でした。「うぶ毛が生えているナ」「柔らかいからさわるなヨ」「道路から石が飛んでき

て傷ついたサー等など。

ずいぶん大きくなつた頃、それを見てかはどうかわからないが、カラスがガーガーとさわぐ。ミツイばあちゃんはかぼちやがつつかれたら大変と、カラスの番をしたりカラスおどしを取り付けたり大忙しの一日もありました。

パンプキンコンテストのことが新聞に載っていた。一等は九十キロ？我が家のかぼちや姫は？まだ収穫はしていないけど、そつと持ち上げてヘルスメーターに乗せてみた。二十八キロ。全然及ばない。けれど、収穫しようか、収穫したらどこへ置こうか……シンデレラの夢はまだまだ続く……そして来年も……

我が家の夢シンデレラかぼちや 第一話 完



かぼちや栽培管理日報

札幌市 小野寺政雄（七十六歳）

- 5月 1日 種無事到着 船木さん有り難う
- 5月 25日 苗・畑に移植
- 6月 10日 追肥、鶏糞・油粕・石灰等若干
- 7月 20日 早朝、晴天、人工受粉
- 追肥二回目、硫安・加里・鶏糞
- 8月 15日 追肥三回目、硫安・加里・鶏糞
- 9月 8日 計測、写真のとおり

シンデレラ夢97に出席できず残念！





感動？ガツカリ？のかぼちや栽培

私の場合のエピソード

遠軽町

小関登美子

大きくなるはずの黄色いカボチャを栽培して四年になる。

きっかけは、カボチャのランタンを作ってみたいと思ったからだ。

家庭菜園というものにまったく興味の無かった私は、最初の年、一袋五百円のアトランティックジャイアントの種を二袋も買って、直播きをした。結果は…一つも芽が出ず一年が過ぎた。

二年目は家の中で芽を出させた。“芽が出た”というだけで私には感動ものだった。我が家の小さな畑ですくすくと育ってもらっては父に申し訳ないと思い、畑の隅に植えた。

とうとうこの年、念願のカボチャがたった一つできた。なんとエ

ビスカボチヤぐらいの大きさ。どんなに待ってもそれ以上大きくならないまま葉などが枯れていったので、さつそくランタンを作ってみた。(写真のもの)

力任せにナイフを入れたら、フニヤフニヤで切りやすかった。他人が見たらこんなものかと思ったかもしれないが、ランタンの顔がしわしわの老人顔になるまで飾っておいた。

三年目、昨年のこと、大きなカボチヤをと思ったが、直径十センチぐらいのが一つ採れただけだった。

そして四年目、今年こそ！と思ったが、もつとひどい直径四センチぐらいのが最大のものです。ちよつとなさけないけれどコンテス  
トに持って行って「ちつちやかかったで賞」とか「情けなかつたで賞」  
なんかをいただいでしまおうと思つたけれどやめておきます。

今年も九十円切手代だけでカボチヤを育てる楽しさをいただきます。

した。どうもありがとうございます。

上手に育てられないので今年で終わりにしようと思ったけれど、来年こそ一センチでも大きなカボチャが採れることを夢見て育ててみようと思っています。

